

バリューアナリシス (VA) の推進 BX

VAの取組み

関西電力グループは中期経営計画において、「BX(強靱な企業体質への改革)」に向けバリューアナリシス (VA) の推進を掲げています。

2021年7月より調達機能を強化し、各部門・グループ会社と連携してコスト構造改革の取組みをスタートしました。

VAの定義

VAとは、各事業部門の設備投資等に対して、調達部門と事業部門が連携し、サプライチェーン上のあらゆる視点から徹底的に効率化を検討する取組みです。

例えば、調達する資機材や請負工事等において、本来の機能や目的に着目して原価構造の分析などを行い、仕様の見直し、物量の平準化、物流の改善など無駄を省いてコストの最小化を検討しています。

そのために、さまざまな視点でアイデアを出しながら検討を進めており、まずは中期経営計画の前提となる予算目標の達成をめざしています。

コスト低減の視点

戦略視点	切り口の例	具体事例
仕様を変更する	数量を変える	必要最小限の工数に精査
	品質レベルを変える	過剰な要求仕様の軽減
	方式を変える	事業所間や他社との仕様統一
	特殊品を汎用品に変える	汎用化により競争発注拡大
	ライフサイクルコストを最適化するなど	ライフサイクル全体でのコスト評価・最小化
工程・プロセスを変更する	工法を変える	簡易工法、工期短縮
	対象範囲を変える	材工分離、設計施工一体化
	実施時期を変える	需要集中・高価格時期の回避
	要求レベルを変える など	過剰要求品質、取引先認定級の緩和
調達の方法を 変更する	買い方を変える	まとめ発注、共同調達、複数年契約など
	サプライヤーの競争環境を変える	競争化、サードパーティ、国際調達など
	サプライヤーとコスト低減を連携する	協働による原価低減活動
	サプライチェーンを最適化する	請求元-G会社内販-外部調達の最適化
	価格交渉力を強化するなど	バンド交渉、包括的な合意形成など

2021年度の実績と今後の目標

VAは関西電力のコスト低減取組み全体に効果があり、2021年度の実績(中期経営計画策定時の計画値からのコスト削減額)は約700億円と大幅な低減を実現しています。

今後は、2025年度に向けて、中期経営計画の目標達成をめざします。

具体的な取組内容

発電所の委託業務におけるコスト低減事例

火力発電所における、清掃業務、守衛業務、車両運転業務の委託について、これまでの特命先である取引先の役割や実施内容の見直しを行いました。

具体的には、委託範囲(箇所、工数)の厳選や発電所ごとではばらつきのあった仕様の統一等です。あわせて発注方法も変更し、火力発電所全体でコスト低減を実現しました。

関西電力送配電におけるコストエンジニアリング※によるコスト低減事例

関西電力送配電では、柱上トランスの実機器を分解して、原価構造の分析を実施しています。

それらの活動を通してコスト低減のポイントを見極め、部品構造・仕様・材料・点数の変更等を取引先に提案をしています。また、これにより、取引先からの逆提案も引き出し、契約形態の変更を含めてコスト低減を実現しています。

さらに、関西電力送配電と調達本部で連携し、社外知見を活用してコストエンジニアリングスキルの習得を進めており、2022年度にスキルの内製化と定着をめざしています。



コストエンジニアリングのワークショップの様子

※コストエンジニアリング:市場・取引先、製品の製造・工程、各部門の技術等に関する知識を基に、原価分析を行い、あるべきコストを算定してコスト低減戦略につなげるスキル